

目次	会務報告	323
	第24回青空地衣教室東北地区（田沢湖・秋田駒ヶ岳）に参加して ／高橋奏恵	323
	剣山観察会（第27回青空地衣教室）／木下薫	325

### 会務報告 Report of the JSL Activities

#### 第24回青空地衣教室東北地区（田沢湖・秋田駒ヶ岳）に参加して

Report of the 24th Outdoor School on Lichens at Tazawa-ko Lake and Mt. Akita-koma-ga-take, northern Japan (7 July 2008) / KANAIE Takahashi

高橋奏恵：広島県環境保健協会

第7回地衣学会大会が盛況のうちに終了し、観察会参加者15名はその日のうちに青空地衣教室の会場である秋田駒ヶ岳へ向けて出発しました。当日の宿である水沢山荘へ到着すると、駐車場でウメノキゴケ類やトリハダゴケ類がぎっしりと着生した一本の木と、キゴケ類やハナゴケ類が密生した岩塊を見つけました。参加者の皆さんは当然のごとく目を奪われ、宿へのチェックインも忘れて、わらわらと木と岩の前に集まり始めました。しばらくすると、いつまでも宿に入らない私達を見かねて山本大会会長が呼びにきました。その日の夜はゆっくりと温泉に浸かり、翌日の観察会に向けて英気を養いました。

二日目、原田講師の指導のもと観察会が始まりました。まずは駐車場にあった例の岩塊でキゴケ類とハナゴケ類を観察しました。原田講師によると、少

なくともキゴケ類は2種以上あり、それはユビキゴケとニセユビキゴケとのことでした。また、ショウゴゴケの仲間やヤリノホゴケ、コアカミゴケが着生しており、そ



図1. 出発前に宿の岩の周りで議論が始まる。（撮影：原田浩）



図 2. これがツメゴケね。あちらにヨコワサルオガセが見えます。ブナ林の地衣類観察を楽しむ参加者。（撮影：原田浩）

れらを観察しました。30分ほど駐車場で観察しましたが、この調子では日が暮れてしまいそうだったので車に乗り込み、乳頭温泉へ向かいました。ここでは、ブナ林に着生する地衣類を観察しました。原田講師より、カワラゴケ、アオキノリ、ナメラウラミゴケ、エビラゴケ類などの特徴について説明を受け、おのおの歩きながら観察をしました。空吹湿原に到着すると、サルオガセ（おそらくヨコワサルオガセであろうとのこと）がブナに着生しているのを確認することができました。さらに林道を歩いていくと、徐々に硫黄の臭いがしはじめ、それとともにブナに着生する地衣類も減り、ついには丸裸のブナとなりました。ほんとうに徐々に地衣類が減っていく景観はとても興味深いものでした。丸裸のブナが見られる特殊な環境の中、イオウゴケが確認されました。多少雨がばらついていたので、雨に濡れたイオウゴケは子器の赤がきれいに映え、美しい姿を見せてくれていました。ブナ林の地衣類を観察した後は、田沢湖に向かいました。

まずは田沢湖東側の県民の森で、土手の上に広範囲に生育するモミジツメゴケを観察し、そのあと北側へ移動しました。北側は田沢湖の中で最も地衣類の多様性が高い地域のひとつで、観察するには適した場所と言えます。北側では、カラクサゴケ類、ヤママツゴケ、ゲジゲジゴケ類などの葉状地衣類や、チャシブゴケ類、ダイダイゴケ類などの菌状地衣類、樹状地衣であるカラタチゴケを観察することができました。田沢湖には観察会等で何度も来ているのですが、見てもなかなか難しいということもあり、湖岸の岩場には足を向けていませんでした。すると、原田講師が湖岸付近でアカミゴケを発見しました。コアカミゴケ以外のアカミゴケ類は見つけることができていなかったため、少し悔しい思いがしました。そして、観察会も終盤に差し掛かった頃、原田講師はクチナワゴケとノルマンゴケを次々発見していくのでした。まだまだ見る目になっていないと、あらためてもっと精進しなくてはと思いました。

心配されていた雨も激しく降ることはなく、楽しく観察会を終えることができました。参加者の皆様、お疲れ様でした。宿や車の手配など、観察会のお世話をしてくださった秋田県立大学山本先生、小峰先生、原先生、岩崎先生、そして田沢湖湖畔新産種を次々発見しつつ、ていねいな指導をくださった講師の原田さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

（高橋奏恵：広島県環境保健協会）

\*\*\*

（第24回青空地衣教室の記録） 開催日：2008年7月7日。開催地：秋田駒ヶ岳・田沢湖畔。講師：原田浩（千葉県立中央博物館）。参加者：15名。／（編集委員長）

## 剣山観察会（第27回青空地衣教室）

Report of the 27th Outdoor School on Lichens at Mt. Tsurugi, Shikoku, western Japan (26 Sept. 2008)  
/ KINOSHITA Kaoru

木下 薫：明治薬科大学

高知大学にて行われた植物学会のシンポジウム(9月25日)に参加したあくる日、天気はあいにくの小雨模様。高知市内を出発し、2台の車に分乗して約2時間半かかって徳島県の剣山に向かった。剣山リフト乗り場に着く頃には、雨も何とかやんで、雨なしで地衣観察を出来たのは幸いだった。「剣山(つるぎさん)は、四国に位置する標高1,955mの山で、西日本第二の高峰であり、徳島県の最高峰である。日本百名山の一つ。一帯は剣山国定公園に指定されている。」とのこと。これを高知へ行く前に調べておくべきだった。この日の前の週は生薬学会で長崎、帰ってきてすぐ植物学会の用意をしつつ、バタバタと忙しい数日を過ごし、地衣観察会のことをあまり真面目に考えていなかった。Gパンと運動靴さえあれば何とかナル!?いえ、そんなことはありませんでした。カッパも防寒具もなしで出かけた私は浅はかだった。何とか、カッパを現地調達し(今はコンビニで安いカッパが売っている)、持って行ったものをすべて着込んで山へ向かった。リフトで標高1750メートル地点まで

上り(結構寒かった)、その付近の岩場で始めに観察を行った。私の地衣観察会の参加は、恥ずかしながら実に15年ぶりくらいで(すみません)、しかも、こんな山での観察会は初めてだった。剣山は、本ニュースレターの編集長の原田さんが、学部学生の3、4年生の時に、吉村先生の指導の元、卒論を書くべく、何度も、この地で地衣の調査を行った所であると言うことは、観察会も後半になって知った事実だった。リフトを降りてから少し下った所の道なき道をざざと入って行き、岩場(西島神社)を登って崖に出た。あたりはすっかり雲に覆われていたので、岩場下の景色が見えなかったのは幸いだったのかもしれないが(図1)、一步踏み外せば・・・!?という所でも(図2)、皆さんどんどん登っていき、地衣の観察や撮影に余念が無い(図1)。おてんば娘だった(現在はおてんばOBASAN?)もワクワクして岩場に登って行ったわけだが、その岩場に、剣山あたりで見られる特徴的な地衣を原田さんがどんどん見つけて紹介してくださった。ほとんど初めて見るも



図1. 西島のチャート露頭で地衣類撮影に余念がない参加者。そちらは危ないですよ。



図2. 岩場を鮮やかな黄色で彩るチズゴケ。撮影したときは気がつかなかったが、この写真では下のほうも見えないじゃないですか。



図3. チャート上で見つけたヤスゴケモドキ. (撮影: 原田浩)

のばかりで(図3), 目からウロコ状態. こんなスリリングな観察会は初めてで, 本当に楽しいひとときを過ごさせていただいた. 岩場もスリリングだったが, 良い地衣が見つかりと山の斜面もざざーと登って突き進んで行くのもスリリングで, 何とも身軽に進んで行った原田

### ●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は, 許諾を受けてください. 詳細は本誌 80号 290ページに.

#### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 80, p. 290 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 89, pp. 323-326: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 20 Oct. 2008.



図4. 斜面を登り樹幹に着生する大形の葉状地衣を撮影する原田さん.

さんのかっこよかったこと!!その写真を是非皆さんにご紹介したいと思う(図4). 私も負けずと?当日, 撮りに撮りまくったおよそ35種の地衣の写真が約80枚. それらが何の地衣だったか照合するのに手間取っているが, 少しずつ復習して, 剣山の地衣を楽しんでいる今日この頃である.

観察会でお世話になった山本先生を初めとする皆様, 本当にありがとうございました.

\*\*\*

(第24回青空地衣教室の記録) 開催日: 2008年9月26日. 開催地: 剣山(徳島県). 参加者: 8名. / (編集委員長)

---

日本地衣学会ニュースレター 89号

発行日: 2008年 10月 20日

編集: 原田 浩・木下 薫

発行者・発行所: 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

---

©2008 日本地衣学会 (© 2008 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します. 無断転載・無断複製等は固くお断りいたします.